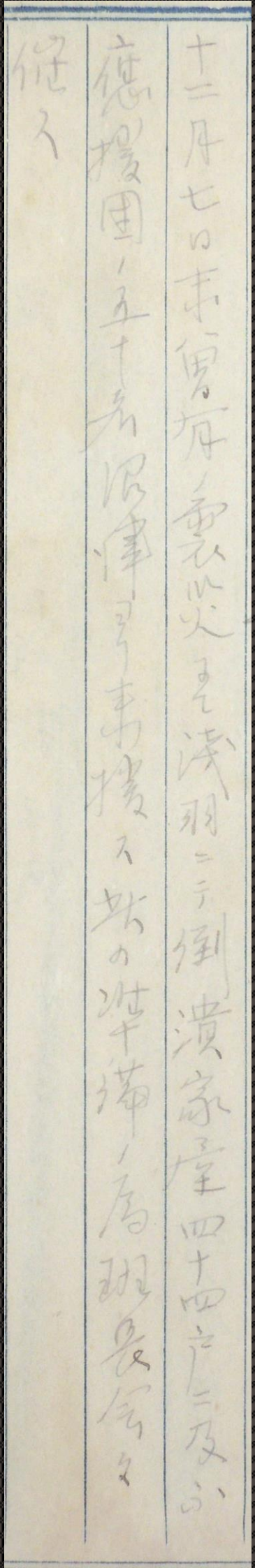
一九四四年東南海地震関係史料集

袋井市歴史文化館



【翻刻凡例】

一　翻刻に際して、正字体や異体字で書かれている漢字は現在通用の字体に改め、変体仮名は現在使われている平仮名に改めた。固有名詞は、正字体、異体字のままにした部分がある。

一　判読困難文字は「□」でその文字分を表し、虫損・水損・破損・抹消などで判読不能の文字は「■」でその文字分を表した。文字数が不明の場合には、「　　」によって判読困難部分あるいは判読不能部分のおおよその長さを示した。

一　〔　〕内は翻刻者による翻刻に関する注記である。誤字と判断される文字の訂正は〔〈訂正後の文字〉〕、判読困難箇所については〔カ〕を、文意が通らないが原文通りに翻刻した部分については〔マヽ〕を、衍字については〔衍〕を、脱字については〔〈抜けている文字〉脱〕を、該当する文字の右側に付した。行間の余白の都合によっては、該当部分の左側に付している場合もある。

一　抹消されている文字については、抹消された後に書き直された文字を本文に書き、その右側に、〔×〈抹消されている文字〉〕という形で注記した。行間の余白の都合などによっては、該当部分の左側に付す、あるいは、抹消されている文字を本文中に書き、その左側に「ε」を付すことで抹消を示している場合もある。

一　（　）内は語注である。年号の西暦変換などの注を、該当する文字の右側に付した。行間の余白の都合によっては、該当部分の左側に付している場合もある。

一九四四年　東南海地震

一九四四年十二月七日、三重県沿岸に、マグニチュード七・九の地震が発生した。戦時中ということもあり、この地震の情報はほとんど報道されなかったが、各地で大きな被害を出した震災であり、静岡県では、袋井地域に被害が集中したことでも知られている（静岡県編集・発行『静岡県史　別編２　自然災害誌』一九九六年）。

市内の関係史料は、既に『袋井市史　史料編四　近代現代』（一九七三年）に『袋井町震災誌』が収録され、『浅羽町史　資料編三　近現代』（一九九七年）にまとまった史料群が収録されているほか、袋井市総務部防災課編集発行『袋井市防災史』（二〇一〇年）が各種史料をまとめ、情報を集積している。

しかし、これら史料集に収録されていない史料もあり、そうした未刊行史料は、状態も悪く、展示や出納が困難になっている。

本稿は、市史・町史未収録の一九四四年東南海地震関係史料を、後世に残すために収録したものである。

保存状態

袋井市所蔵の一九四四年東南海地震関係史料には、二つの大きな課題がある。一点目は残存点数が少ないこと。二点目は、その保存状態が極めて悪いことだ。

本稿では、まとまった量の関係史料が残っている、浅羽自治会文書を紹介する。文献史料の残存状況は、偶然に大きく左右される。断片的ながらも浅羽自治会文書に史料が残っていたのは、奇跡的なことだ。

関係史料が残りにくい背景には、もう一つ理由がある。これから紹介する史料写真をご覧いただければ一目瞭然だが、紙自体がかなり劣化しているのだ。これには、震災が発生した昭和十九年（一九四四）当時の物資不足が影響していると見られる。

（次ページ写真「庶乙第五一号　災害復旧用風呂釜配給ノ件」）

3 6
694

庶乙第五一號

昭和二十年四月二十六日　上浅羽村役場

浅羽村長殿

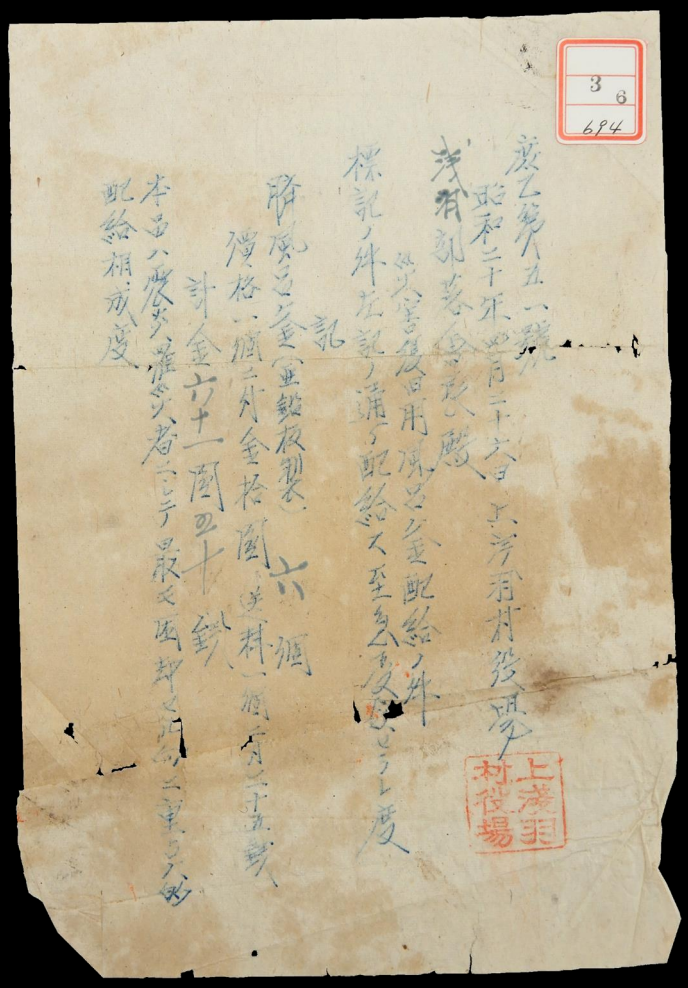
從業員及各用風呂釜配給ノ外
標記ノ外左記ノ通リ配給ス至急手続ヲ願度

記

陶風呂釜（亜鉛板製）六個
價格一個ニ付金拾圓（送料一個ニ付金二十五錢）
計金六十一圓四十錢

本品ハ疎開者ニテ最モ困難ナル向ニ重点ヲ置キ
配給相成度

上浅羽村役場



「庶乙第五一号　災害復旧用風呂釜配給ノ件」

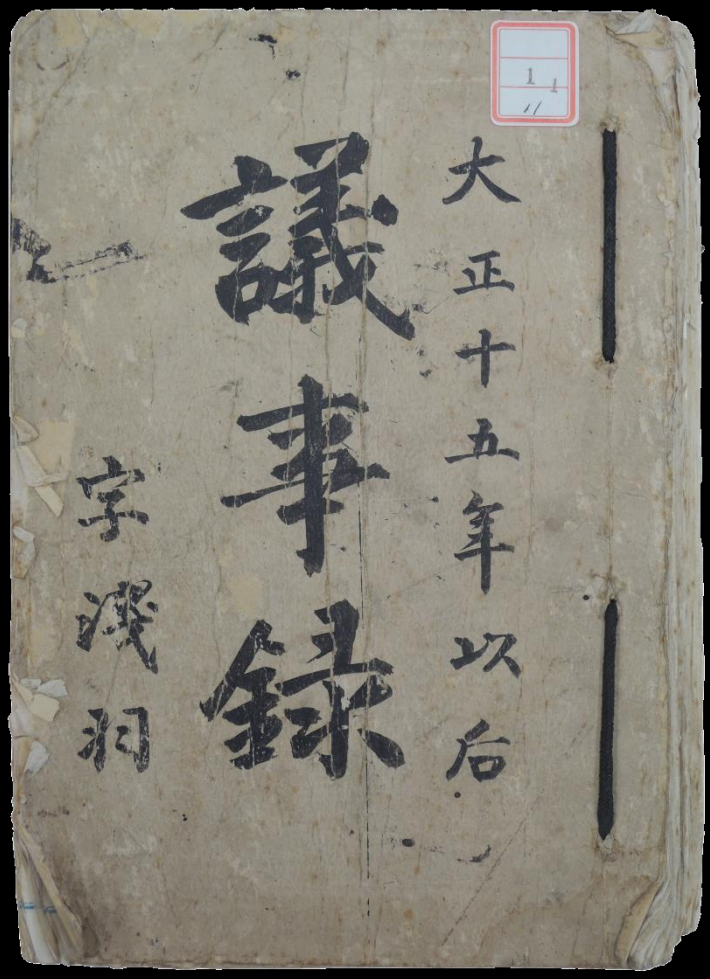
震災から約半年後の昭和 20 年（1945）4 月 26 日に上浅場村役場から出された災害復旧用の風呂釜配給に関する史料。

紙が完全に崩壊しており、展示などは完全に不可能である。

これは、物資不足により、無理やり作られた再生紙が使用されていることによる。おおよそ、昭和 13 年頃から急激に紙の質が落ちる。昭和 10 年代の史料は左写真のような状態のものが多く、保存が大きな課題となっている。

また、この史料は、数多く配布するため、青焼き（複写）に必要な箇所のみ書きこんだものなのだが、見て分かるように、文字がかなり薄くなっており、読みにくい。

明治末～昭和 10 年代の公文書には、こうした複写の形で残されているものがある。紙の質が悪いことに加え、文字が薄いため、なんとか紙が残っていても、文字が読めないことも多い。



『大正十五年以后　議事録』

大正 15 年（1926）3 月 26 日から昭和 19 年（1944）12 月 25 日までの浅羽常設委員の会議録が記された議事録。

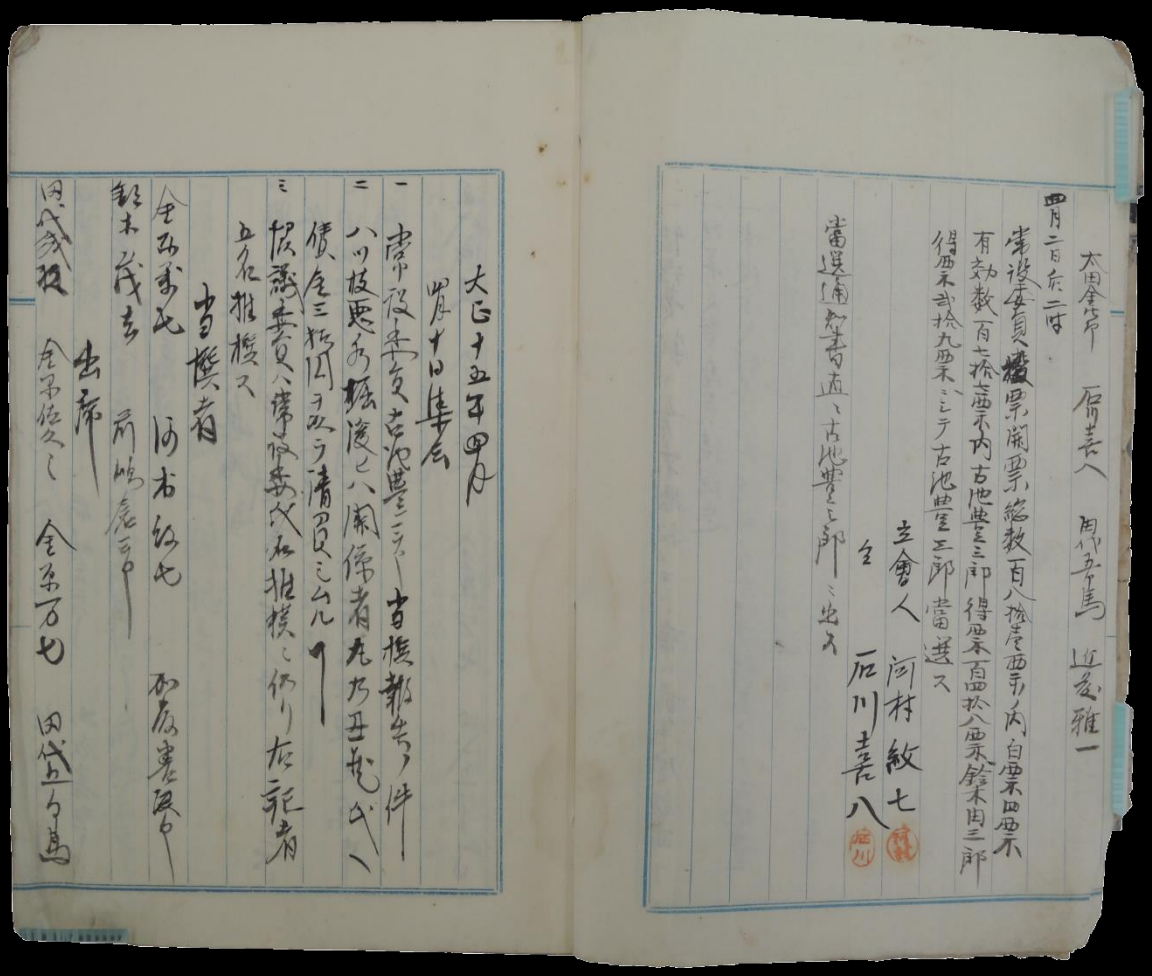
全 600 頁以上あり、1944 年東南海地震関係史料はほぼ最後の記事にあたる。

段々紙の質が下がり、インクも薄くなっている。

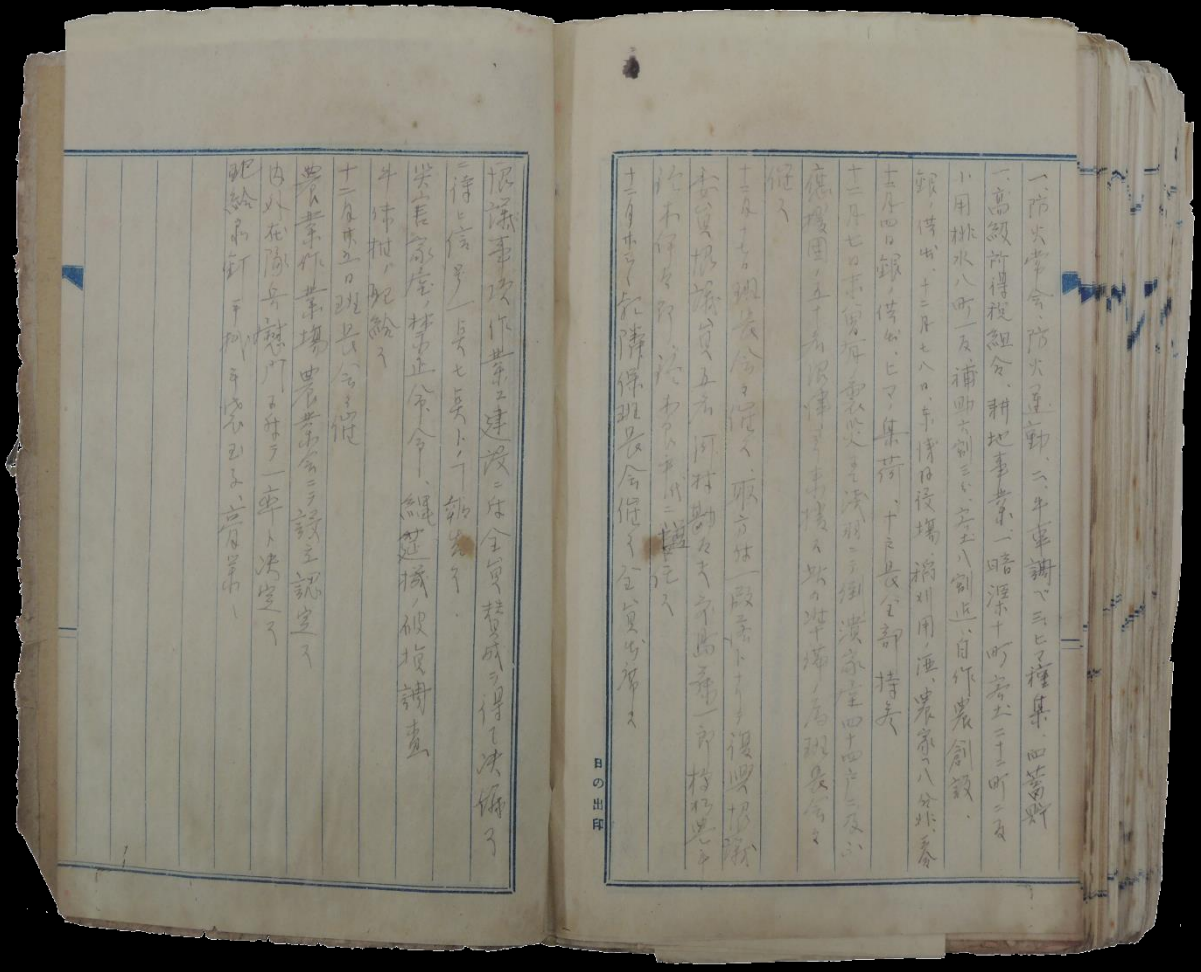
次ページに、『大正十五年以后　議事録』のほぼ最初の見開きと最後の見開き（＝1944 年東南海地震の記事）を並べてみたので見比べてほしい。

最後の方の文字は、鉛筆の文字に見えるかもしれないが、薄いインクで書かれている。

なお、写真が最初の見開きでないのは、表紙が固く、うまく写真が撮れなかったことによる。



『大正十五年以后　議事録』のほぼ最初の見開きに当たる大正 15 年（1926）４月２日条。



『大正十五年以后　議事録』の最後の記事。文字が薄く、ほとんど見えない（次ページに拡大写真）。

一、防火常会、防火運動、二、牛車調べ三、ヒマ種集、四、蓄財

一、高級所得税組合、耕地事業、一、暗渠十町、客土三十二町二反

小用桃水八町一反、補助六割三分、客土八割近、自作農創設、

銀ノ借出、十二月七八日、東博ノ役場、稱刈用ノ油、農家ニ八分米、参

十五日四日銀ノ借出、ヒマノ集荷、十戸長全部持参

十二月七日東京府ノ要救護ニ浅羽ニテ倒潰家屋四十四戸ニ及ぶ

徳授国ノ五十名消防隊ノ事務ヲ其ノ準備ノ為班長会ヲ

開ク

十二月十七日班長会ヲ開ク、取立ハ一段落トナリテ復興協議

安賞協議賞五名、阿村勤ヲ表彰ノ申出

於本庁、於本庁ニ出張

十二月末ニ部隊保班長会開ク全賞出席ヲ

応援

一九四四年東南海地震は、昭和十九年（一九四四）十二月七日、三重県沿岸に発生した。

静岡県では、七日午後九時に緊急非常対策会議を開き、罹災援助基金法を発動。八日早朝、被害地に職員を派遣。このほか、警防団、青年団、翼賛会等の労力出動、非被災地からの動員もあったという（中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会『１９４４東南海・１９４５　三河地震報告書』内閣府、二〇〇七年）。

袋井市の関係資料を見ると、浅羽にも県内の様々な地域から応援が来たことが分かる。

（次ページ写真『昭和拾九年十一月　震災記録』）

十二月十七日　晴　当番　河村　伊藤

御殿場農学校実習農隊四年生

八九十十一番組　配分ス

岩田村役場人夫二十二名　勤労作業班受

二番組　四名ノ午仕事　七番班　電キヤ跡

穿起シ作業　田代ト外ノ方　伊藤吉五郎

十二月十八日　晴　当番　河村　村松

御殿場農学校　埼玉農隊　四年生

四五六七二　番組　配分ス

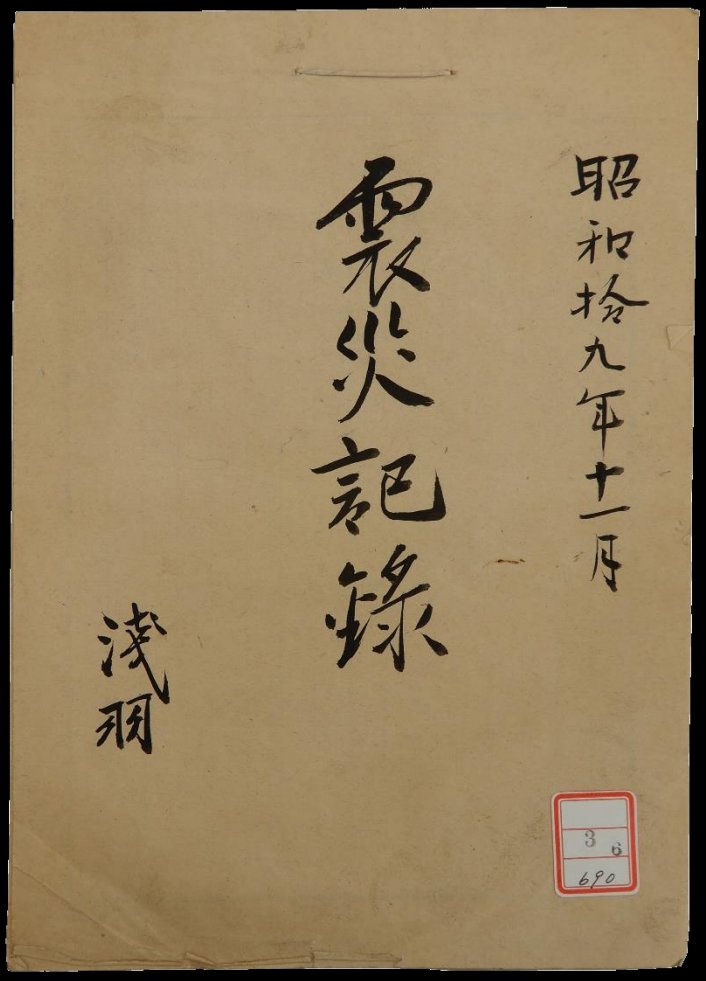
醤油　五升六升　味噌　二十五貫　酒　二斗三升

農夫持配ノ　千俵分配ス

作大井　鈴木市太郎　石川義雄　二カ所起ス　中泉

七七ノ　石川新作　小池農事実方　移植

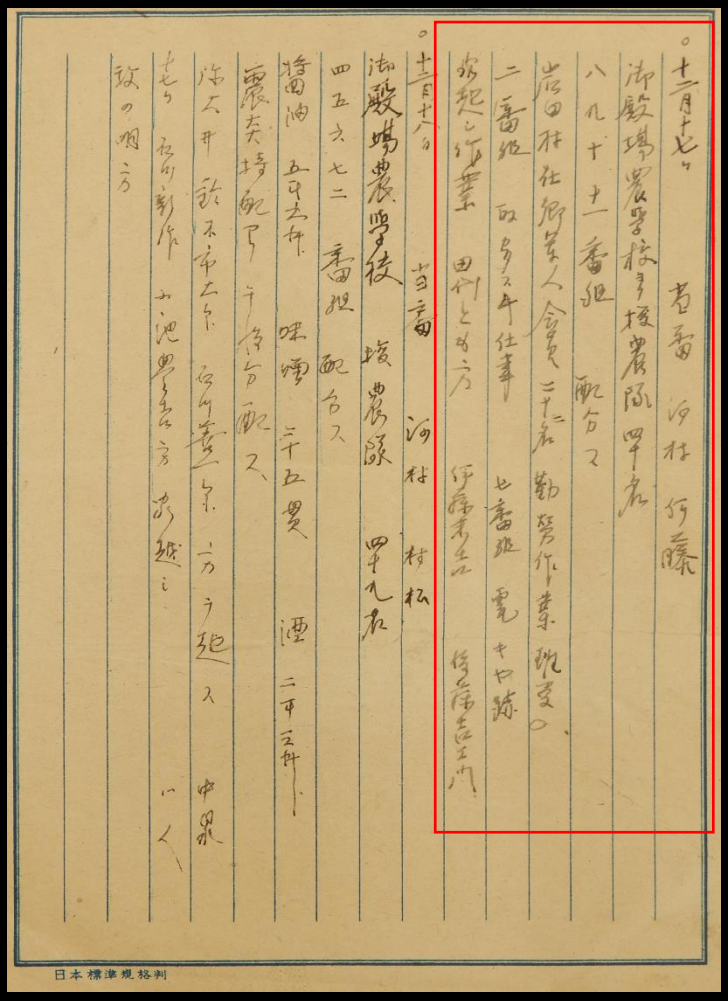
牧野　一人



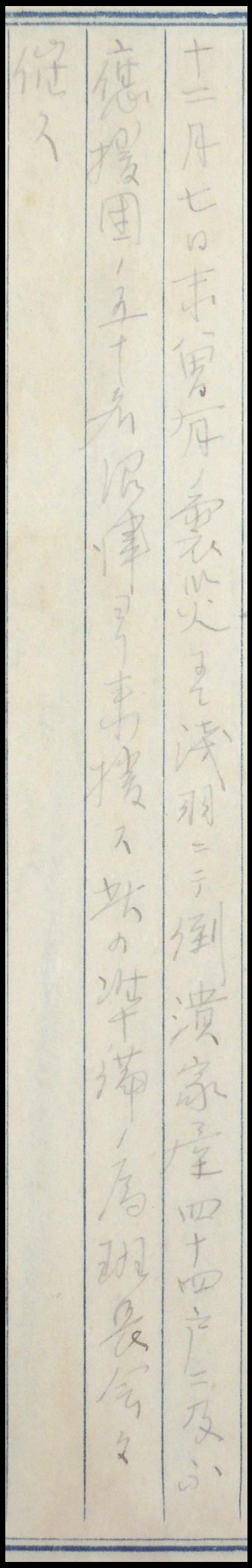
『昭和拾九年十一月　震災記録』

表紙に「昭和拾九年十一月」とあるが、内容は1944年東南海地震の記録である。書き間違いだろうか。

メモ書きなのでかなり読みにくいが、重要な情報を含んでいる。



○十二月十七日　当番　河村　伊藤
御殿場農学校ヨリ援農隊四十名
八　九　十　十一番組　配給ス
岩田村在郷軍人会員二十二名　勤労作業　班受
二番組　取寄ス手仕事　七番組　電キヤ跡
家起し作業　田代とも方　伊藤末吉　後藤吉エ門

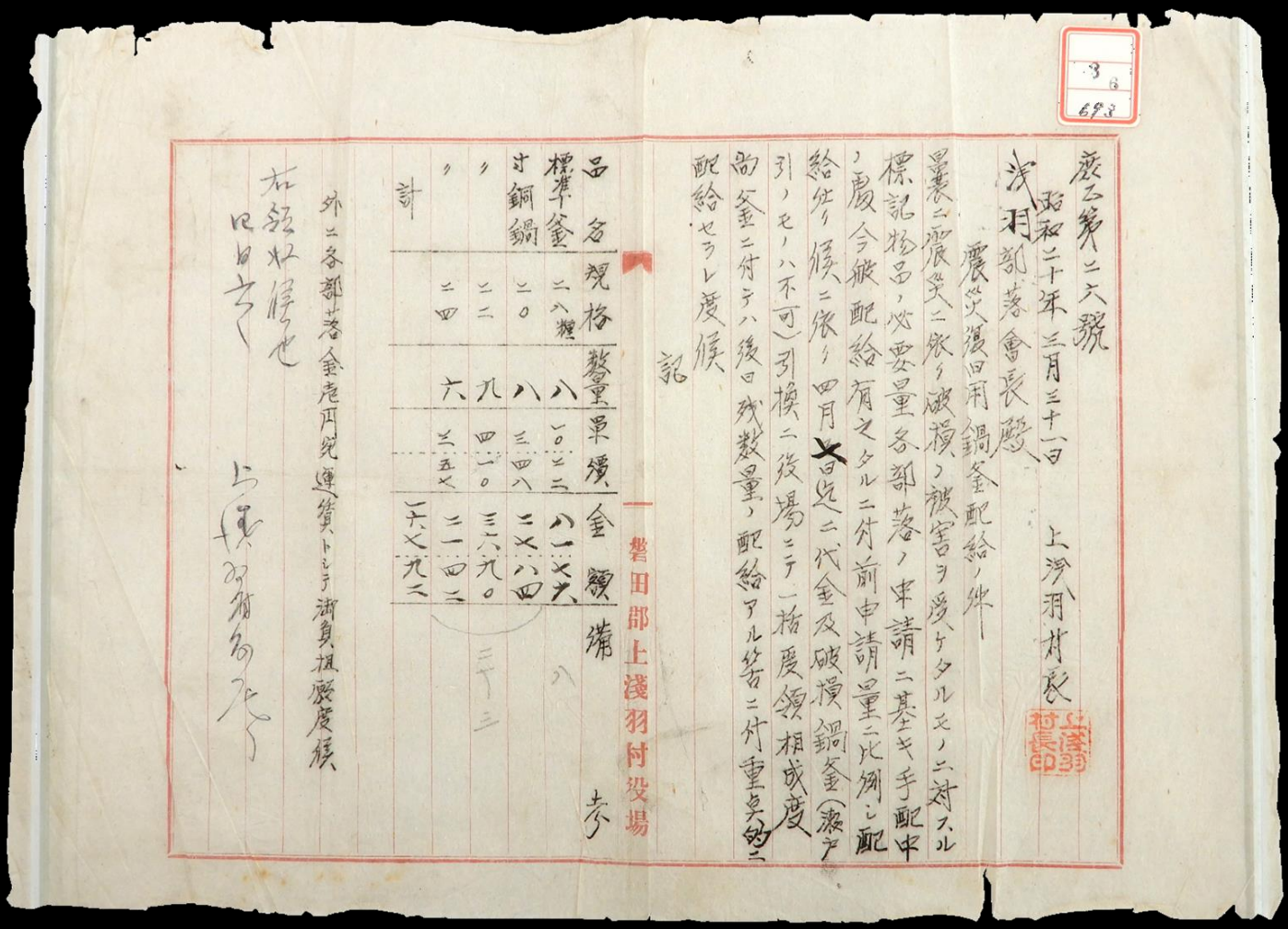


十二月七日、未曾有ノ震災にて、浅羽ニテ倒潰家屋四十四戸ニ及ぶ。
応援団沼津ヨリ来援ス。此の準備ノ為班長会々催ス。

『大正十五年以后　議事録』
昭和 19 年（1944）12 月 7 日条

配給・救助金

災害復旧において重要な物資と金銭。状態の悪い史料が断片的に残っているのみだが、最後にそうした史料を紹介する。

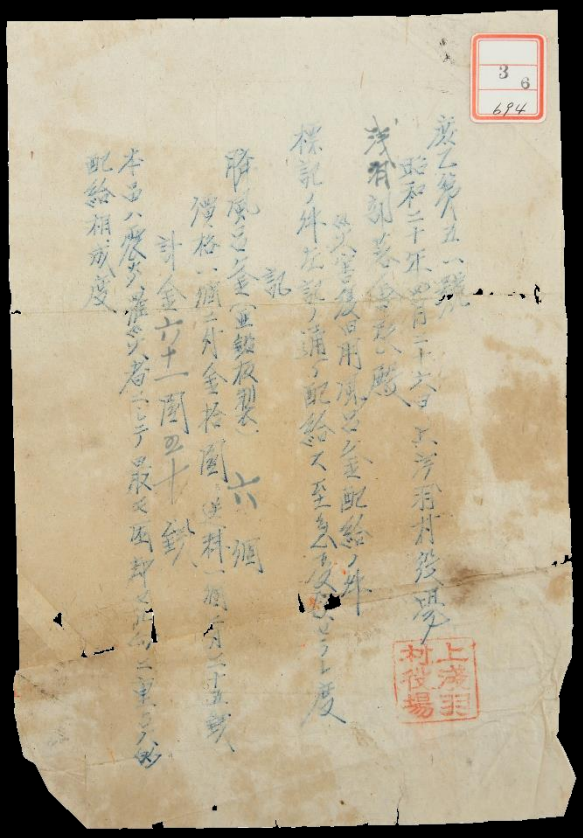


庶乙第二六號
昭和二十年三月三十一日　上浅羽村長
浅羽部落會長殿
震災復旧用鍋釜配給ノ件
曩ニ震災ニ依リ破損ノ被害ヲ受ケタルモノニ対スル標記物品ノ必要量各部落ノ申請ニ基キ手配中ノ處今般配給有之タルニ付前申請量ニ比例シ配給セリ候ニ依リ四月末日迄ニ代金及破損鍋釜（滋戸引ノモノハ不可）引換ニ役場ニテ一括受領相成度尚釜ニ付テハ後日残数量ノ配給アル筈ニ付重点的ニ配給セラレ度候
記

品名	規格	数量	単價	金額	備考
標準釜	二八糎	八	一〇・二二	八一・七六	
寸銅鍋	二〇	八	三・四八	二七・八四	
〃	二二	九	四・一〇	三八・九〇	
〃	二四	六	三・五七	二一・四二	
計				一七七・九六	

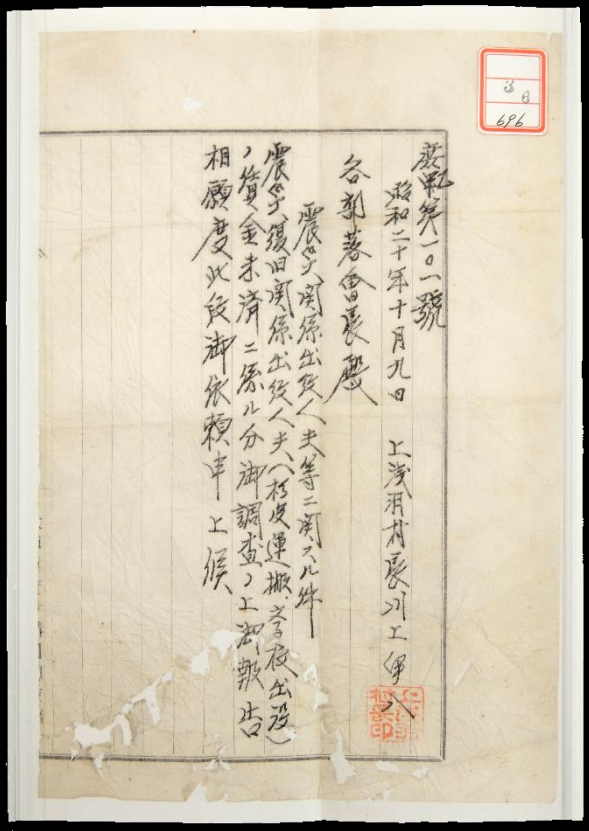
外ニ各部落釜壱円宛運賃トシテ御負担願度候
右報告候也
昭和二十年三月三十一日　上浅羽村長

昭和 20 年（1945）３月 31 日「庶乙第二六号　震災復旧用鍋釜配給ノ件」



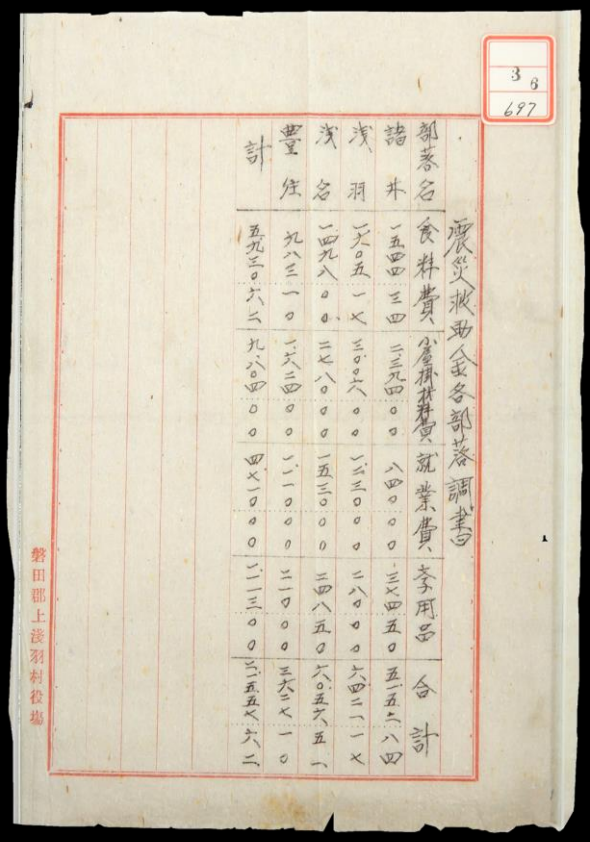
庶乙第五八號
昭和二十年四月二十六日　上浅羽村役場
浅羽部落會長殿
震災復旧用風呂釜配給ノ件
標記ノ件左記ノ通配給ス至急受領ス度
記
婦風呂釜（世話役製）六個
價格一個ニ付金拾圓
計金六十個也
本品ハ震災者ニテ最モ困難ナル者ニ重点的配給相成度

昭和 20 年（1945）４月 26 日
「庶乙第五八号　震災復旧用風呂釜配給ノ件」

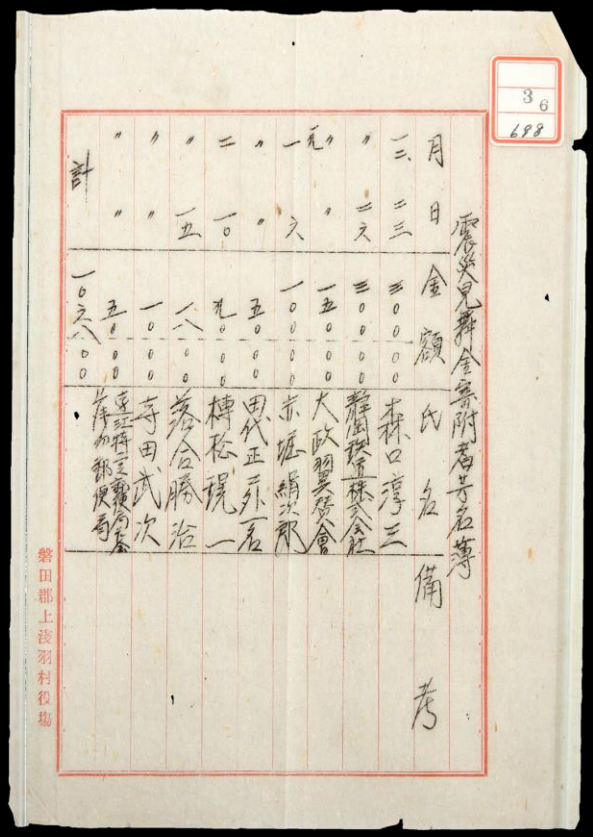


庶乙第一〇一號
昭和二十年十月九日　上浅羽村長川上伊八
各部落會長殿
震災関係出役人夫等ニ関スル件
震災復旧関係出役人夫ノ賃金未済ニ係ル分御調査ノ上御報告相願度此段御依頼申上候

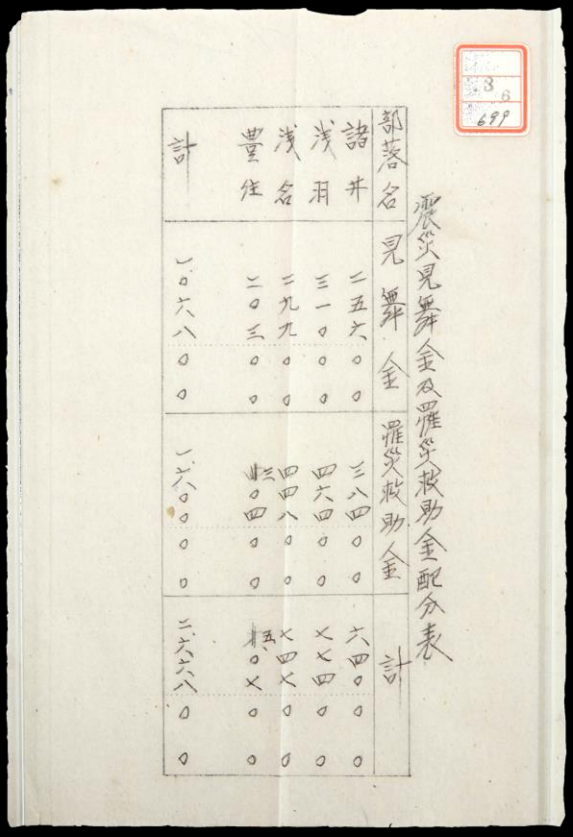
昭和 20 年（1945）10 月 9 日「庶乙第一〇一号
震災関係出役人夫等ニ関スル件」（裏打ちされている）



「震災救助金各部落調書」



「震災見舞金寄附者芳名簿」



「震災見舞金及罹災救助金配分表」

先にも書いたとおり、文献史料の作成、伝来、現存には、偶然的な要素がかなり大きく影響する。

現在残っている文書は、鍋釜類のもののみだが、『昭和拾九年十一月　震災記録』によると、昭和 19 年（1944）12 月 18 日に醤油・味噌・酒の配給があり、翌 19 日には魚の配給があったらしい。

このほか、材木の運搬も組織的に行われたらしい。詳しくは次ページからの史料翻刻を参照されたい。

一九四四年東南海地震関係資料　翻刻

1、浅羽常設委員『大正十五年以后議事録』（抄出）

十二月七日、未曾有ノ震災にて、浅羽ニテ倒潰家屋四十四戸ニ及ふ。応援団沼津ヨリ来援ス。此の準備ノ為班長会々〔開〕催ス。

十二月十七日、班長会々〔開〕催ス。取片付一段落トナリテ、復興協議委員協議員五名、河村勘太夫・前島藤一郎・榑松豊平・鈴木伊太郎・鈴木良平代ニ選任ス。

十二月廿三日、（中略）

災害家屋ノ禁止命令、縄莚機ノ被損調査、牛味〔カ〕甘ノ配給ス。

（堅帳、罫紙使用、縦二四四㎜×横一八〇㎜×厚三九㎜）

2、浅羽常設委員『土木費出納簿』（抄出）

月日	摘要	収入金額	支払金額	差引残高
（中略）				
（昭和二十年二月十日）	震災当時酒配給の不足分		一八・三〇〇	八五五・四二
（中略）				
（昭和二十年二月十日）	震災ニ付班長慰労宴　金原屋支払		六二・〇〇〇	七〇七・五〇
（中略）				
（昭和二十年三月二十六日）	震災義捐金ノ残額	二四・七五〇		一四七四・四八
（中略）				
（昭和二十年四月六日）	鍋釜送料		一・〇—	
（昭和二十年四月六日）	震災配給			
（昭和二十年四月六日）	震災見舞セトモノ送り賃		五・〇〇	（朱筆）七日現在『引一三一八・一〇』
（昭和二十年）8 4	北遠ヨリ震災見舞金受領　役場ヨリ	七〇三・〇〇		
〃	古池勝巳君寄附受領　大字ヘ震災見舞トシテ	一〇〇・〇〇		
〃	震災見舞金分配　全潰十一円半潰五円五十銭		七〇二・五〇	
（中略）				
（昭和二十年八月八日）	〃　震災見舞金太田田代村松分　全潰者十一円半潰者五円五十銭分配		一六・五〇	
（中略）				
（昭和二十年十一月）	26　震災用材木整理　人夫賃　役場ヨリ	一五・〇〇		
（後略）				

（堅帳、縦二三三㎜×横一七〇㎜×厚一五㎜）

3、浅羽常設委員『震災記録』

（表紙）

昭和拾九年十一月

震災記録

浅羽

木材祇園社分

班名	本数	
一三	二本	鈴木豊　古池
一六	五本	鈴木豊
四	三本	丸野澤一郎　西野懇平
五	十一本	〔抹消「田代睦雄　戸根木　文野」〕
三ノ二	六本	
一	五本寺分	大河内常蔵　広長　村松
三ノ一	七本	二　一　二 浅羽勝　浅羽祐一　山田八郎 二　二　三
二	十一本	田代　睦　木根木　文野喜治郎　近藤文平　金原口
七	十四本	近藤文平　松嶌栄一　高橋三代　田代とし　伊藤口口 三　三　三　四　三
公会堂	四本	
〃	八幡社分一本	
学校	八幡社分五本	

○十二月十七日　当番　河村　伊藤

御殿場農学校ヨリ援農隊四十名

八、九、十、十一番組　配分ス

岩田村在郷軍人会員二十名　勤労作業　班受

二番組　取寄ス手仕事　七番組　電キや跡

家起し作業　田代とも方　伊藤末吉　後藤吉エ門

○十二月十八日　当番　河村　村松

御殿場農学校　援農隊　四十九名

四、五、六、七、二　番組　配分ス

醤油　五斗六升　味噌　二十五貫　酒　二斗三升

震災特配アリ　午後分配ス

弥大井　鈴木市太郎　石川善一郎　方ヲ起ス　中泉

十七日　石川新作　小池豊吉方　家起し　八人
牧の明方
十二月十九日　当番　榑松・戸根木
牧野明氏終了次第□□
機械ノ半数ヲ十六組へ。西野（協議ノ結果）河野・古池・□□・戸根木
政次氏宅篤ニ厄除〔カ〕ニ付送ル。〔「榑松」カ〕
正午魚ノ配給。
金原万一郎氏ヨリ機具一台受取ル。
十二月二十日　当番　鈴木□太郎・金原静馬
袋井駅ニ木材運搬。浅羽割当分三十人

第　十四班	四人	第　十五班	四人
〃　十三班	三人	〃　十二班	四人
〃三ノ二	一人	〃　六班	三人
〃　一班	二人	〃三ノ一	三人
〃　五班	牛車一台（二人）	〃　七班	三人

第四班一人
家屋復旧　西野政治　仝　村松恒太郎
十二月廿日用材運搬

一番組	二人	三番組	二人
二番組	二人	三ノ二	一人
六番牛一、二人		七番組	三人

		四番	四人
		五番組牛車一、一人	

十二月廿二日　用材運搬者
石塚貞吉、牛一。河原信治、牛一。榑松豊平、牛一。外四人。
田中、四人、十一番、四人。
当番　丸野・河村
十二月二十一日　木材運搬人足調べ

□□	第一二隣保班	三人	第一三	二人
計、一五名○	〃一四、	四人	第一五	四人
	〃一六	二人		

四、五、六、七班――四名つゝ。六組三名。

計十五名
家起し大河内常蔵方。
第二班　西野政次　杉本伊平
（この条欄外にあり）廿七日。木材整理。学校　金原勝平　深谷『一雄〔×重代〕　九野忠一〔久〕』
二十三日。材木整理。金原勝平。近藤重雄。

十二月廿五日材木運般	廿五日材木運般
一番組　三台	八九十十一組
二番〃　二台	榑松豊平四　平芝組牛車二台
三ノ一　二台	田中庄作四　□□□四
三ノ二　二車	廿六日午後
四番　三	戸根木一　浅羽□□二
五番　三	廿七日
六〃　三	四番四　五〃三　六番三　一番四 牛車
七〃　三	二番三　三番ノ二　三ノ二　三、十四組四
馬場　東三	十五、四、
〃　西　二	廿七日午後
弥　二	馬場五人　西二　東三
西　二	
末永　二	
計三三台	

祇園社材木調
戸根木　四五、20間三寸1間　九円九拾銭
木村吾一、杉、2寸9尺三本　八円十銭
田代睦雄、杉、2間5寸　十円
田代睦雄、檜　2間45　十円十二銭（赤鉛筆により抹消）　二番組十二□□
〃　檜　2間35、六円十二銭
久野幸太郎　2間35、四円九十銭

〃	2間2寸	一円六十銭		
〃 杉	2間4寸	六円四十銭		
〃 杉	2間3寸	三円六十銭		
金原佐久蔵 杉	5寸35、二本	拾七円五十銭	大石保郎五〇〇入	
〃 杉	6寸56	一本 十四円四十銭	□□	
〃 杉	4寸一間一本	四円〇五銭 計	『九一五七（赤鉛筆）〔×八六五七〕 一番組』	
村松恒太郎 檜	3寸四間	三円六十銭		
〃 雑木（杉）スキ	3寸二間	三円六十銭		
大河内常蔵	45二寸二間	八円十銭		
〃	3寸一本	三円六十銭		
廣岡岩太郎 杉	6寸二間一本	十二円四十銭		
丸野澤一郎 檜	25寸二間一本	三円十二銭		
西野懇平 檜	45寸二間	十円〇十二銭		
〃 檜	35寸二間	六円十二銭		
鈴木嘉吉 檜	37寸二間	六円八十四銭		
〃人 檜	4寸一間	八円		
〃人 檜	4寸一間	六円四十銭		
小杉こう 杉	25寸二間	二円五十銭		
鈴木庄作 檜	32二間	五円十二銭		
〃人 檜	3寸二間	四円五十銭		
伊藤計平 檜	4寸二間	八円		
〃 檜	4二間二本	十六円		
〃 杉	35二間	四円九十銭		
高橋三代 檜	45寸二間	十円〇十二銭		
〃 檜	35一間二本	六円十二銭		

伊藤定林 檜	4寸二間	八円		
〃 檜	35一間	六円十六銭三円〇六銭		
〃 檜	35一間	三円〇六銭		
〃 檜	6寸二間	十八円		
〃 檜	4寸4寸一間	四円		
松島栄一 檜	4寸二間	八円		
〃 杉	45二間	八円十銭		
近藤々平 檜	4寸二間	八円		
〃 杉	45分二間	八円十銭		
〃 檜	35二間	六円十二銭		
古池繁 檜	45二間十円十二銭六円四十銭			
〃 杉	4二間	六円四十銭		
〃 〃	3寸一間	一円八十銭		
村松忠一	3寸一間五本	九円		
鈴木良平	4二間	六円四十銭		
〃	2二間	一円六十銭		
鈴木良平 檜	4寸二間	八円		
〃 杉	45二間	八円十銭		
〃 檜	45二間	十円〇十二銭		
〃 杉	45二間	八円十銭		
浅羽勝雄 杉	4寸二間	六円四十銭		
〃 杉	35九尺	三円六十七銭		
浅羽祐一 杉	35六二本	四円九十銭		
山田八郎 檜	3寸九尺	三円三十七銭		
〃 杉	3九尺	二円七十銭		
杉本さと 檜	4二間二本	十二円八十銭十六円		
〃 〃	4一間二本	八円		
田代梅吉 檜	3一間二本	四円五十銭		

四二三一

59

31

『調賃一五〇』（赤鉛筆）　計金三八三、五八

十二月卅日　材木運搬
田中組　四　天王組　四　末永組　四
一月二日材木運搬　『一月七日池田行』（青鉛筆）
一番　四人　『末永二人』（青鉛筆）
二番　四人　『弥太井二人』（青鉛筆）
三ノ一　四人　『〃東　二人』（青鉛筆）
三ノ二　三人　『一番組二人』（青鉛筆）
四番　五人　『計人』（青鉛筆）
五番　四人　一月
六番　四人
七番　五人
弥太井

横　厚五分　巾三寸五分　長一丈三　拾三把
横　厚五分　巾三寸　一三尺　十二本
〃　厚五分　三寸五分　六分　一三尺　五把
〃　厚五分　三寸五分　一三尺　四把
〃　五分　一寸五分　一三尺　一把
〃　九尺　一把

貫　五分　三寸　九尺　六把
〃　五分　二寸五分　三把
〃　九尺　厚五分　三寸　六尺　五分　六把
〃　二寸五分　六尺　五分　二把
板　厚二寸　長十三尺　一把
杉板　巾一尺　十二尺　一把

仝　六尺　ナシ
杉板　八寸　十二尺　四把
〃　七寸　一二尺　一三把
〃　六寸　一二尺　二四把
〃　五寸　一二尺　三八把
スキ（杉）　六分　巾三寸五分　一三二寸　七把
〃　（割注抹消）厚六分　四寸　五一把
松バタ　二十一把
タルキ（この行抹消）　二十一把

〃　九寸　十二尺　四把
横長十三尺　五四
バタ瓦（カ）　五一把
丸太
三十五本

中遠□（この行欄外にあり）見付
三〇　二十九　二十八日　鈴木孫八
五九一三一　91 30 29 25 20 25 25 24　二十二日ヨリ　瀬戸時治郎見付
相良屋
□31—□30—□30□29　中村昇平川口市
村松—村松—　杉山伊三郎
—□31 30 29—夫作（カ）久太郎
中村—　山田—　川口市太□神□
—31—30—29—鈴木嘉吉
—　—かた—塩　崎—
6—5 4—3 2—1□31□31□30□30□29□　中村昇平

伊藤一嘉吉一山田一□□□　村□　□□□

鈴木とみ

（裏表紙）

鈴木良平　大河内□蔵
寺　中村末吉
西野熊平　丸野□□
田代五郎馬　村松恒太郎
古池　繁　村松くに

山本角平　二俣〔カ〕

（以下略）

（綴、「日本標準規格版」罫紙使用、縦二五二mm×横一七九mm×厚2mm）

4、浅羽常設委員『震災後袋井ヨリ材木運搬人員』

（表紙）

昭和二十年一月ヨリ

震災後袋井ヨリ材木運搬人員

浅　羽

（本文／原文は内題を除き二段組みで書かれている）

震災後袋井ヨリ材木運搬役

第一班

計十二人　金十二円つゝ（割印）
池田行二人　金　六円也
計金拾八円也

第二班

計十三人　一人一円つゝ（割印）
計金十三円也

第三ノ一班

計　十三人　一人一円つゝ（割印）
計金十三円也

第三ノ二班（割印）
計　九人　一円つゝ
計金九円也

第四班
計二十人　一人一円つゝ（割印）
計金二十円也

第五班
計　十人　一円つゝ
牛車一台　三円也（割印）
計金十三円

第六班
計十七人　一人一円つゝ（割印）
計金十七円也

第七班
計十五人　一人一円つゝ（割印）
計金十五円也

第八班
計　九人　一人一円つゝ（割印）
計　九円也

第九班
計十三人　一人一円つゝ（割印）
計金十三円也

第十班
計　四人　一人一円つゝ（割印）
牛車二台　六円也
計金十円也

第十一班
計　八人　一人一円つゝ（割印）
計　八円〔マヽ〕つゝ

第十二班
計　十三人　一人一円つゝ（割印）
計　十三円也

第十三班
計九人　一人一円つゝ（割印）
計九円也

第十四班
計　十四人　一人一円つゝ（割印）
池田行二人　三円つゝ六円
計　二十円也

第十五班
計十五人　一人一円つゝ
池田行二人　三円つゝ六円
計金弐十壱円也

第十六班

計八人　一人一円つゝ（割印）
池田行二人　三円也　六円也
計十四円也
合計金弐百四十弐円也
七月十二日支払

（竪帳、罫紙使用、縦二五五mm×横一七五mm×厚1mm）

5、浅羽常設委員「庶乙第二六号　震災復旧用鍋釜配給ノ件」

庶乙第二六号
昭和二十年三月三十一日（一九四五）　上浅羽村長（村長印）
浅羽部落会長殿

震災復旧用鍋釜配給ノ件

曩ニ震災ニ依リ破損ノ被害ヲ受ケタルモノニ対スル、標記物品ノ必要量各部落ノ申請ニ基キ手配中ノ処、今般配給有之タルニ付、前申請量ニ比例シ、配給仕リ候ニ依リ、四月『七』（×五）日迄ニ代金及破損鍋釜（瀬戸引ノモノハ不可）引換ニ役場ニテ一括受領相成度。
尚釜ニ付テハ後日残数量ノ配給アル筈ニ付、重点的ニ配給セラレ度候。

記

品名	規格	数量	単価	金額	備考
標準釜	二八糎	八	一〇…二二	八一…七六	『八』（鉛筆）
寸胴鍋	二〇	八	三…四八	二七…八四	
〃	二二	九	四…一〇	三六…九〇	『二十三』（鉛筆）
〃	二四	六	三…五七	二一…四二	
計			…	一六七…九二	

外ニ各部落金壱円宛、運賃トシテ御負担願度候。

『右領収候也。』（異筆）
四月六日　上浅羽村□□□

（一紙、罫紙使用、縦二四六mm×横三四三mm）

6、浅羽常設委員「庶乙第五一号　災害復旧用風呂釜配給ノ件」

庶乙第五一号
昭和二十年四月二十六日（一九四五）　上浅羽村役場（上浅羽村役場印）
『浅羽』部落会長殿
　災害復旧用風呂釜配給ノ件
標記ノ件、左記ノ通リ配給ス。至急受領セラレ度。
　記
臍風呂釜（亜鉛板製）　『六』（異筆）個
　価格、一個ニ付金拾円。送料、一個ニ付二十五銭。
　計金『六十一』（異筆）円『五十』（異筆）銭
本品ハ、震災罹災者ニシテ、最モ困却セル向ニ重点的配給相成度。

（一紙、縦二三八㎜×横一六四㎜）

7、浅羽常設委員「庶乙第一〇一号　震災関係出役人夫等ニ関スル件」

庶乙第一〇一号
昭和二十年拾月九日　上浅羽村長川上伊八（印）
各部落長殿
　震災関係出役人夫等ニ関スル件
震災復旧関係出役人夫（杉川運搬、学校出役）ノ賃金未済ニ係ル分、御調査ノ上御報告相願度、此段御依頼申上候。

（一紙、罫紙使用、縦二四二㎜×横一六五㎜）

8、浅羽常設委員「震災救助金各部落調書」

震災救助金各部落調書

部落名	食料費	小屋掛材料費	就業費	学用品	合計
諸井	一五四四三四	二三九四〇〇	八四〇〇〇	三七四五〇	五一五二八四
浅羽	一六〇五一七	三〇〇六〇〇	一二三〇〇〇	二八〇〇〇	六四二一一七
浅名	一四九八〇〇	二七八〇〇〇	一五三〇〇〇	二四八〇〇	六〇五六五一
豊住	九八三一〇	一六二四〇〇	一一一〇〇〇	二一〇〇〇	三六二七一〇
計	五九三〇六二	九八〇四〇〇	四七一〇〇〇	一一一三〇〇	二一五五七六二

（一紙、罫紙使用、縦二四三㎜×横一七〇㎜）

9、浅羽常設委員「震災見舞金寄附者芳名簿」

震災見舞金寄附者芳名簿

月日	金額	氏名	備考
一二、二三	三〇〇〇〇	森口淳三	
〃　二六	三〇〇〇〇	静岡鉄道株式会社	
〃　〃	一五〇〇〇	大政翼賛会	
一　六	一〇〇〇〇	赤堀絹次郎	
〃　〃	五〇〇〇	田代正二外一名	
二　一〇	九〇〇〇	榑松鋸一	
〃　一五	一八〇〇	落合勝治	
〃　〃	一〇〇〇	寺田武次	
〃　〃	五〇〇〇	遠江特定郵便局長会 上浅羽郵便局	
計	一〇六八〇〇		

（一紙、罫紙使用、縦二四三・五㎜×横一七〇㎜）

10、浅羽常設委員「震災見舞金及罹災救助金配分表」

震災見舞金及罹災救助金配分表

部落名	見舞金		罹災救助金		計	
諸井	二五六	〇〇	三八四	〇〇	六四〇	〇〇
浅羽	三一〇	〇〇	四六四	〇〇	七七四	〇〇
浅名	二九九	〇〇	四四八	〇〇	七四七	〇〇
豊住	二〇三	〇〇	三〇四	〇〇	五〇七	〇〇
計	一〇六八	〇〇	一六〇〇	〇〇	二六六八	〇〇

（一紙、縦二三九㎜×横一六四㎜）

一九四四年東南海地震関係史料集

二〇二〇年九月　初版発行

袋井市歴史文化館編集